

90年度

1990.1 - 1990.8

九〇春闘に、第六一回白川メーデーに

たたかう愛労連をアピール

2/26 第三〇期地労委裁判 名古屋地裁に提訴

知事の偏向行政、差別行政を正し、労働者の救済機関としての地労委本来の機能をとりもどすたかいたくとして裁判へ。
原告は、愛労連、国労愛知県支部、自治労愛知県本部(現自治労連)、愛医労(現医労連)、全国一般あいち支部、同。



名古屋市職と名水労が本庁合同集会

全明治屋労組名古屋支部、それらの組合から推薦されたのに任命されなかった成瀬昇・坂崎進・渡辺三千夫・黒島英和の四氏の合計十団体・個人。

愛知共済会を設立 3・10

働くものの助け合い制度の充実をめざして愛知共済会を設立。



「90春闘アンケートピラのイラスト」

90春闘 「がんばり」の差 数字(妥結)にもクッキリ

全労連・愛労連は、結成後はじめての春闘として意気高いたたかいたくがみました。自粛要求・一発回答による「春闘管理」が一層強められるも、愛知春闘共闘は、労働省・愛知県・日経連・連合のどの妥結集計よりも、額・率ともに上回る成果をつくりだしました。

妥結状況/六月二十五日現在

春闘共闘	一五二・六円/六・三七%
連合愛知	一二九七四円/五・九一%

約三二〇〇〇人分を集約した要求アンケート、未組織むけのアンケートピラ、三次にわたる門前・社宅、ターミナル宣伝。六単組一七五〇〇人が参加した六年ぶりのストライキや十七単組での職場集会をたたかった全労連自治労(現自治労連)、運輸一般、医労連、全動労、全国一般、紙パ、JMIUでのストライキ。全職場集会の愛高教、国公共闘が二五ヶ所地域集会、医労連の白衣の行動など「たたかう先頭に愛労連あり」の状況がすべての単産・地域で展開されました。

国鉄闘争で 4・25 全労連が臨時大会

国鉄闘争は、労働運動の「再生の環」と位置づけ。組織の総力をあげてたたかう方針を確立しました。

4/27 メーデー前夜祭に 八〇〇人

「こころ重ねて」と題した青年を中心にした構成劇Ⅱ(タイムスリップで過去を転々。たたかうメーデーの歴史を学び、現実の矛盾に気づくストーリー)、保母一〇〇人や白衣の大合唱、港湾のうたごえ、愛高教・大野憲一さんのテノール、合唱団サボテン、メーデー歌をうたう合唱団など手作りの前夜祭。同日、西三河でも前夜祭、二〇〇人が参加しました。



写真は、第62回愛知県中央メーデー

第61回 メーデー

白川メーデーに 一五〇〇〇人

中央メーデー(白川公園)に一五〇〇〇人、地域メーデーも豊橋七〇〇人、一宮に三五〇人、春日井に三〇〇人、安城に一〇〇〇人、蒲郡に五〇〇人など参加者数でも、また、職場・地域から工夫をこらした要求の結集など、「たたかうメーデー」にふさわしい内容となりました。

地域労連も次々に結成

- 名古屋東区労働組合総連合 九〇年 三月 七日
- 東三河労働組合総連合 九〇年 三月十一日
- 海部・津島労働組合総連合 九〇年 三月十七日
- 名古屋北区労働組合総連合 九〇年 四月 三日
- 愛労連緑地地域労働組合センター 九〇年 四月十一日
- 瑞穂区労働組合総連合 九〇年 五月一〇日
- 愛労連・天白地域労働組合センター 九〇年 六月十四日
- 全労連岡崎・額田地域労働組合センター 九〇年 九月十四日
- 全労連豊田・加茂労働組合総連合 九〇年 九月二二日
- 尾北地域労働組合総連合 九〇年 九月二九日
- 西三河南地域労働組合総連合 九一年 一月十二日
- 知多地域労働組合総連合 九一年 一〇月二三日
- 尾張東地域労働組合総連合 九一年 十二月 六日
- 愛労連・昭和区労働組合センター 九二年 十一月十九日
- 名古屋西地域労働組合総連合 九四年 一月二〇日

世相

バブル経済・湾岸危機・リストラ・働くだけが人生か・ウエルネス・イタめし・おやじギャル・ホスト化現象・花婿学校・臨海副都心・ハローワーク・パラドル